



多摩川の学び舎



瀬田中だより

令和7年度 第6号
世田谷区立瀬田中学校
校長 山口 実史
令和7年9月1日発行

◇◆◇ 校長あいさつ (9月1日 始業式より) ◇◆◇

校長 山口 実史

皆さん、おはようございます。

皆さんが元気に登校したことを大変にうれしく思います。また、それぞれが充実した夏休みを過ごし、新たな気持ちで9月を迎えたことでしょう。

夏休みに、部活動、ボランティア活動、ビブリオバトルに参加した皆さん、ご苦労様でした。吹奏楽部の皆さんは、12年ぶりに東京都中学生吹奏楽コンクールに参加し、銀賞を受賞しました。おめでとうございます。

1学期の終業式では、「夏休みは普段できないことに挑戦しよう」「戦後80年です。平和について考えよう」と、話しました。私もいろいろなことをしました。その中で、2つのことを話します。

1つ目は、世田谷区にある「せたがや未来の平和館（世田谷区立平和資料館）」を見学しました。今年は戦後80年、世田谷区の平和都市宣言40年、「せたがや未来の平和館」開館10周年でした。「せたがや未来の平和館」は、三軒茶屋から徒歩18分で、世田谷公園の中にありました。「せたがや未来の平和館」では、世田谷区の歴史や戦争に関する資料や実物が展示してありました。皆さんも「平和とは何か？」を考えるために、「せたがや未来の平和館」へ行ってみてください。

2つ目は、芥川也寸志さんについて、校長室前に掲示してある3冊の本を読みました。芥川也寸志さんは、瀬田中学校の校歌を作曲した方で、今年、生誕100年を迎えました。3冊の本には、戦争当時のこと、戦後のこと、音楽のことなどが触れられていました。芥川也寸志さんは、1925年に芥川龍之介さんの3男として生まれ、16歳の時に太平洋戦争開戦、18歳で東京音楽学校本科に入学、19歳で学徒動員として入隊、20歳の時に終戦、その年に東京音楽学校に復学、22歳で東京音楽学校本科を卒業、23歳の時に瀬田中学校が開校し、当時の音楽科教員が校歌の作曲を依頼し、24歳で瀬田中学校の校歌を作りました。その後、63歳までオーケストラ曲、童話、映画音楽など作曲を続けていました。瀬田中学校の校歌は、戦争が終わって4年後に作られました。初代校長の横田繁一先生の歌詞にも「平和の光 うららかに」「生命たたえて 若人の」とあります。校歌は、平和であることに感謝して作られたと思います。これからも、校歌を大切に歌い継いでください。

2学期にはいろいろな行事があります。皆さんの活躍を期待します。

最後に、2学期の学校生活が始まります。悩んでいることや心配なことがあったら、どんな小さなことでも、学校の先生やスクールカウンセラーなど、誰でもよいので相談してください。学校は、必ず皆さんの力になります。2学期も明るく元気に生活をしましょう。

以上で始業式の話进行ります。

